



日本骨髄バンク

NEWS

Vol.61

<https://www.jmdp.or.jp/>

LINE公式アカウント
お友だち登録はこちら



日本骨髄バンクの現状
※2022年10月末現在

ドナー登録者数 > 54万2,926人

移植数 > 27,136件

「社会を変える アイデアフェス」 開催特集号!

「若い世代のドナー登録を増やすには？」 同世代の学生たちがアイデアを出し合いました



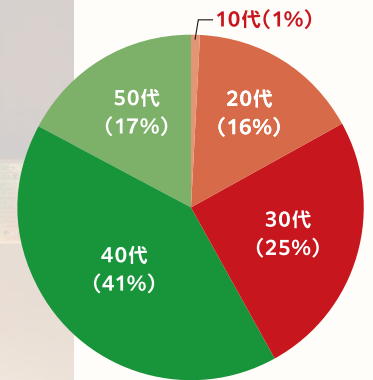
TOPICS



EVENT REPORT



年代別ドナー登録者の分布



10年以内に
20万人近いドナーが卒業

造血幹細胞移植の現場では、「移植後の治療成績が良い」「健康上の理由による終了(提供不可)が少ない」などの理由から、若いドナーが求められています。事実、これまでに提供したドナーの6割以上が、20代・30代でした。

しかし、登録者542,926人(2022年10月末現在)のうち、30代以下は約4割にとどまっています。

9月24日、「若い世代のドナー登録を増やすには」をテーマに、電通グループと「社会を変えるアイデアフェス」を共催しました。参加したのは開催地広島県にある大学や高校を中心に7校、35人の学生です。

3日間にわたるアイデアフェスの初日は、基礎を学ぶプログラム。元患者さんと提供ドナーの体験談などを聞き、移植や骨髄バンク

への理解を深めます。電通グループのクリエイターからは、アイデアの発想法や情報収集術の講義がありました。

各々のフィールドワークを挟んで、2日目はグループワーク。「若い世代に骨髄バンクを知ってもらうには?」「ドナー登録してもらうには?」、持ち寄ったアイデアをかたちにしていきます。

本番はステージ上でのプレゼンテーション。地元球団とのコラボ企画や骨髄バンクのキッチンカーなど、11チームのアイデアはどれも興味深いものでした。審査員の熟慮の結果、予定より多い4チームが表彰され、アイデアフェスは閉幕しました。

受賞アイデアが、実現に向けて動き出していきます。皆さまにもぜひ応援していただきたい、骨髄バンクの未来へ向けた新しいチャレンジです。

中心に7校、35人が参加、 何ができるか真剣に考えました！！



骨髄バンクユースアンバサダー2名も講師、学生さんたちに自身の経験を伝えました！



骨髄提供経験者

骨髄バンク
ユースアンバサダー **門谷健太朗さん 27歳**

ドナー登録をしたのは高校生のころ、献血会場で見たチラシがきっかけです。当時はあまり深く考えずに登録したので、まさか2度も提供することになるとは思いませんでした。20歳と22歳の時でした。

両親に提供したいことを伝えると、最初は強く反対されました。でも「もし逆の立場で、命をかけてでも助けたいと思う自分の家族が同じ状況だったら、助けてほしいでしょう」と伝えたところ、納得してくれました。入院は人生で初めてでした。元気なので、病院食では足りずにコンビニのご飯を食べたり、持ち込んだたくさんのお本を読んだりして過ごしました。ドラマで見るような手術とは違って「手術台に自分の足で乗る」ということが意外で、面白かったです。

提供にはもちろん不安もありましたが、多くの病院スタッフから「がんばって」と声をかけられると、自分が誰かの役に立てることが誇らしく、前向きに考えることができました。提供は無事終了し、後日相手の患者さんから感謝の手紙もいただきました。今でも読むと涙してしまう、自分の宝物です。

骨髄提供は、簡単ではないからこそ、素晴らしい経験になります。ドナー登録がゴールではなく、患者さんを助けることがゴールです。今回のアイデアフェスが、若いドナー登録者の気持ちの継続(リテンション)につながり、新しい登録者を増やしていくきっかけになればうれしいです。

体験談②
ゴールはドナー登録ではなく、患者さんを助けること



骨髄移植経験者

骨髄バンク
ユースアンバサダー **中田萌々香さん 22歳**

私は3歳のころに再生不良性貧血を発症しました。この病気は、赤血球や白血球、血小板が少なくなる難病で、「20歳まで生きられないかもしれない」と言われていました。中学校に入るまでは通院しながら様子を見ていましたが、だんだんと症状が悪化し始めたため、骨髄移植を受けることになりました。妹とは白血球の型であるHLAが合わず、骨髄バンクを通じてドナーさんを探し、運良く提供してくださる方が見つかりました。移植までの日々は吐き気や脱毛などの副作用に苦しみましたし、移植後も拒絶反応が出ましたが、移植はなんとか成功しました。少しずつ体調が良くなり、大好きな学校に通えるようになったことが本当にうれしかったです。

移植後、ドナーさんから手紙で「自分の人生を楽しんでください」という言葉をいただきました。これからも、ドナーさんや家族、骨髄バンク、病院の皆さんなど多くの人に助けてもらったことに感謝しながら、全力で楽しく生きていきたいと思っています。

骨髄提供は大変な決断ですが、ドナーの方々がいるから救われる命があることを実感しています。苦しんでいる患者さんたちのためにも、若い世代の協力者が増えていくことを願って、これからも活動していきます。

体験談①
ドナーの方々がいるから救われる命があることを実感

審査員特別賞



学校名 | 島根県立大学
チーム名 | モルヒル
タイトル | 『ずいずいカー』

ドナー登録会場にキッチンカーを呼び、その日の体調に合ったお弁当が食べられるようにするアイデア。写真映える、若者が好む空間作りでSNSからの呼び込みを狙いました。

審査員特別賞

③解決方法 (アイデア)



マツダスタジアムでドナー登録をしながら、特等席での試合を見れる。

例 **ピースドナーシート**

学校名 | 黒瀬高校
チーム名 | 黒高魂
タイトル | 『患者も応援できる席』

地元広島らしい、広島カープとコラボするアイデア。ドナーへメリットを提供することの必要性を訴えました。

参加学生コメント

自分たちが骨髄バンクを広めていくんだという使命感を感じた。

考えたアイデアが実現されていくと思うととても嬉しい。

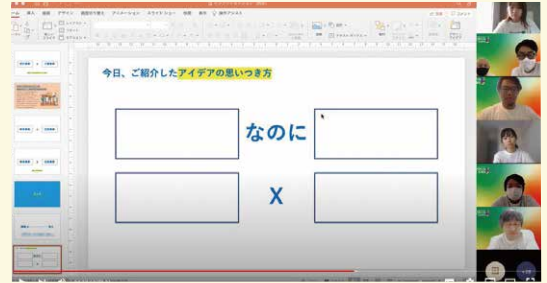
広島県にある大学や高校を

若い世代のドナー登録を増やすために、

骨髄移植の今を変え、未来へ繋げていく



②持ち寄ったアイデアをプレゼン用にまとめていく



①骨髄バンクに関する基本的な知識、現状などを学んだ後、グループに分かれて若年ドナーを増やす方法をディスカッション



会場が笑いに包まれるような
ナイスアイデアも!



③各グループが作成した手書きの資料でプレゼン

ダイジェストムービーはこちらから >>



AWARD

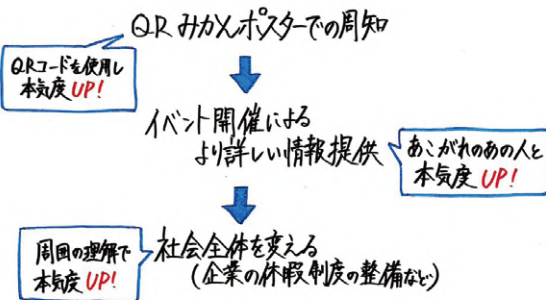


👑 グランプリ



学校名 | 広島国際大学
チーム名 | 管理区域
タイトル | 『本気の登録』

事前に200名弱からアンケートを取り、まずは周知が必要であることを指摘。同じものを見つけることが難しい「色」と、「白血球の型」を関連付け発信するアイデアを提案しました。またドナーを支える親や社会全体へのアプローチにも言及。本気で患者を救うことを目指しました。



👑 準グランプリ



#しょーもある運命

学校名 | 広島国際大学・日本赤十字広島看護大学
チーム名 | しずく
タイトル | 『#しょーもある運命』
患者とドナーの「白血球の型」が一致する確率を、日常で出会う「しょーもない運命」と結び付け、SNSで展開するアイデア。観客を引き付けるプレゼンも評価されました。

重要なお知らせ

携帯電話番号を登録してください！

2022年3月末より、「適合通知(患者さんとHLAが適合したことのお知らせ)」の発送を、郵送に加え、SMS(Short Message Service/ショートメッセージサービス)でも開始しています。多くの方がメール画面の案内に従って速やかに提供意思をご回答くださり、「問診用紙に記入して、投函」というこれまでの方法に比べると、ドナーの手間も省け、コーディネーター期間の短縮につながっています。

将来的には、「適合通知」の郵送は廃止、SMSのみでの連絡となる予定です。**ドナー登録時に携帯電話の番号を登録しなかった方、登録時より携帯番号の変更があった方は、すみやかに下記の方法で登録/変更手続きを行ってください。**1日でも早い移植を望む患者さんのために、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

携帯電話番号、住所などの変更方法

1

ウェブサイトで手続きする

造血幹細胞移植情報サービス

bmdc

検索

【登録内容変更ページ】

https://trk.bmdc.jrc.or.jp/donor_web/



アクセスコードが必要です

①

ログイン画面でアクセスコード、生年月日、メールアドレスを入力し「認証」ボタンを押します。

※アクセスコードは骨髓バンクニュース宛名台紙などに印字されています。
※アクセスコードがわからない場合や使えない場合は下記の方法で手続きください。

②

①で入力したメールアドレスに届く専用URLにアクセスし、一緒に届くワンタイムパスワードと生年月日を入力してログインします。

③

変更する項目を入力・確認して手続完了！

※上記の方法で現在の登録内容も確認できます。

2

電話で手続きする

日本赤十字社ブロック血液センターまでお問い合わせください。

※電話受付は平日(月~金)の9:00~17:00です。

北海道ブロック血液センター

011-613-6683

管轄地域

北海道

東北ブロック血液センター

022-354-7083

管轄地域

青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関東甲信越ブロック血液センター

03-5534-7534

管轄地域

茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県

東海北陸ブロック血液センター

0561-85-4298

管轄地域

富山県、石川県、福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿ブロック血液センター

072-643-1173

管轄地域

滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中四国ブロック血液センター

082-241-1614

管轄地域

鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州ブロック血液センター

0942-31-8974

管轄地域

福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

3

献血ルームで手続きする

最寄りの献血ルームの受付窓口で、登録内容に変更がある旨をお伝えください。その場で用紙にご記入いただけます。後日、お近くの日本赤十字社ブロック血液センターからお電話で変更内容について確認させていただく場合があります。

※献血ルームの所在地、受付時間などは、造血幹細胞移植情報サービス(<https://www.bs.jrc.or.jp/bmdc/index.html>)のトップページから「一般の方へ」⇒「ドナー登録したい」を選び、「受付窓口(固定窓口・登録会含む)」をご覧ください。

ご注意いただきたいこと

ドナー登録者の登録情報の変更は日本赤十字社へ。それ以外のお問い合わせは日本骨髓バンク(03-5280-1789)へお願いします。

●発行2022年12月7日 公益財団法人日本骨髓バンク ●発行責任者 小寺良尚(理事長) ●編集責任者 小川みどり(事務局長)

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-19廣瀬第2ビル7F TEL 03-5280-8111 FAX 03-5280-0101

ご寄付のお願い

移植を待つ患者さんのために力を貸してください

https://www.jmdp.or.jp/help_us/ または

※こちらのご案内は、皆さまのお気持ちにより必要に応じてご利用いただいております。
不要でしたらご遠慮なく破棄してください。

骨髄バンク事業は、
皆さまの善意に支えられています。







皆様のご寄付で可能になるのは(例)

- 普及啓発のためのポスター制作
- ドナー登録会の開催
- ドナーが提供するための環境整備

寄付金の使途

多くの方に骨髄バンクを知っていただくための資料制作、ドナー登録会の開催、よりスムーズなコーディネートのための環境整備などの費用として活用させていただきます。

寄付には5つの方法があります

- 1 ゆうちょ銀行窓口で寄付 (郵便振替口座)**

この払込用紙を使用して窓口にてお手続きいただくと、振込手数料・現金加算料・硬貨取扱手数料は発生しません。窓口備え付けの青色払込用紙でも各種手数料は無料になります。
※ATM・ゆうちょダイレクトをご利用の場合は、各種手数料が発生しますのでご注意ください。
- 2 銀行振込で寄付**

みずほ銀行間での手数料が無料になる専用振込用紙をお送りします。
- 3 お電話で寄付 (クレジットカード)**

カードをお手元にご用意のうえ、お電話ください。お名前・ご住所・電話番号・カード番号・カードの有効期限・ご寄付の金額をお知らせください。
- 4 インターネットで寄付 (クレジットカード、楽天銀行)**

①インターネットクレジットカード寄付※1
②楽天銀行※2
※1:毎月の寄付も選択できます。
※2:手数料無料です。なお、事前に口座の開設が必要です。

- 5 口座自動引き落としで寄付**

お持ちの金融機関の口座からご寄付の引き落としができます。資料をお送りします。

賛助会員入会のお願い

骨髄バンク賛助会員とは、毎年1回、定額(個人1口10,000円、法人1口100,000円)のご寄付を継続して行っていただく制度です。以下の専用払込取扱票をご利用いただくか、当法人寄付担当までご連絡ください。

お問い合わせ・資料請求は寄付専用フリーダイヤルまでお電話ください。皆さまの温かいご支援をお待ちしています。

寄付専用フリーダイヤル ☎ **0120-377-465** (平日 9:00~17:30)

寄付者さまの声を紹介!

ご支援の輪が広がっています

55歳になりドナー登録を卒業したので、これからは寄付で協力していきます。



孫が骨髄バンクからの移植で病気を克服しました。感謝をこめて寄付します。



会社を経営しています。がんばっている患者さんのために、定期的に売り上げの一部を寄付しています。



社会に貢献したいと思い、相続した財産の一部を寄付しました。*



※相続税申告の際に寄付分が控除されます。詳しくはお電話でご相談ください。